

*ポレーシエとは チェルノブイリ付近の湖沼低地帯をいう



祝！ 2008.9.3. 遂に“バイオディーゼル燃料”の試作に成功！！

ウクライナ国ナロジチ地区で始められた「菜の花プロジェクト」も、2年を過ぎようとしています。この間、プロジェクトは土壌からナタネが放射能を吸収する条件を研究してきました。そして、我々の予想通り「ナタネは、汚染された畑から放射能を吸収する」ことが実証されました。そして今回、ナタネ栽培と並行して、プロジェクトの2番目の柱であるバイオディーゼル燃料（BDF）の試作が始まりました。

製造装置メーカー（MSD）の武田さん（写真左から2人目）の指示のもと、現地での装置運転（候補）者アナトリーさん（同左から4人目）と、



<完成したBDFとテスト走行したトラック>

チェルノブイリ救現地駐在員の竹内さんが試運転にあたり、その補助を私と河田さん、宮腰さんが受け持ちました。今回の試作用のナタネ油は、我々がまだ自前の搾油機を持っていないため、隣町オブルチから買いました。試作では、ナタネ油やウクライナ製のメタノール・苛性ソーダ・塩酸などの薬品の精製や純度が悪く、その上、不純物を洗い出す水道水に泥が混じっていて、武田さんは随分苦労されました。試作前日は、机上で広口瓶を使って入念に適切な反応条件を探り、当日を迎えました。

そして9月3日、遂に幾多の困難を乗り越え、土地管理ステーションの中にあるBDF製造建屋で、BDFの試作に成功しました。

翌日は、できあがったBDFを製造装置の電源（＝ディーゼル発電）の燃料に使い、さらに土地管理ステーションのトラックの燃料にも使いました。トラックは、30キロを順調に走り、発電機は元気に電気を作りました。プロジェクト2年にしてBDFを作ることができたことは、きわめて大きな成果です。試作に取り組みました武田さん、そして、このプロジェクトを常に支えていただいている皆様に心より感謝いたします。

（原 富男）

（詳しくは、次ページ以降の「特集!! “ドキュメントナロジチ通信”(BDF 試作編)」を、是非読んでください。)

〒466-0822 名古屋市長和区楽園町 137 1-10

チェルノブイリ救援・中部 代表：小牧 崇

郵便振替：00880-7-108610

TEL/FAX：052-836-1073（月・水・金 10:00～17:00）

ホームページ：http://www.chernobyl-chubu-jp.org

【8/7】無事、ナロジチに到着。現場では、建屋内壁のタイル剥がしが終わり、モルタル塗り作業が始まっていた。建設業者は、「改修工事は、装置のテスト稼働(19日まで)に必ず間に合わせる」「人件費を含む見積書も、8月12日に出す」と明言。

【8/11】 宿舎(配電会社寮)で食事を作ってくれることになったバーリャおばさんの知人達(獣医学検査研究室)のパーティーに呼ばれる。

ここでは、家畜や野生動物の放射能測定をしていて、今も100検体の内1件は基準値を超えと言う。

【8/12】 建設業者の見積書が出なかった! 現地責任者(プロジェクトマネージャー)の不在を痛感。とはいうものの、資材の購入をしているブ氏(プロコペンコ氏)に、トタンやブロックとその運搬費用、釘等の代金18万円は既に支払われた。行政庁内でブ氏とウ氏(ウスティメンコ氏)と我々で話し合い。ブ氏が資材を用意し、ウ氏が労力を提供している実態がわかる。

ウ氏は、今後の労賃を126万円でどうかと提案してきた。(私は、テスト稼働の日程も迫っているので、腹の中ではこの金額で決めようと思った。しかし…)

【8/13】 日本に「労賃は126万円で決めたい」と連絡したものの、自信が持てず大いに悩み、自分なりの積算を試みることにした。その結果、511,959円が妥当な金額だと判断するに至った。

【8/14】 建設会社と交渉し、原から511,959円を提示した。ウ氏は126万円入ると考えていたものが51万円になるため、大いに不満であったが、見積書さえ出さずにいかにげんな金額126万円を提案したこと自体が大問題であり、ねばり強く交渉した結果、双方合意のもと仮契約書に署名した。ここには75万円もの差があり、大切な資金を無駄にするところであった。ウ氏は始めこの金額の差に怒っていたものの、前金を受け取ると徐々に態度が軟化し、仕舞にはコニャックで乾杯するほどになった。

【8/15】 現場の左官衆が給料をもらっていないと言い出し、不満を言った左官の頭をヤクザ風の男がのこぎりで殴るという流血事件を目撃。また「コンクリートを打ちたいのに砕石が間に合わず、天井板を打ちたいのに電気配線が終わっていない」など、資材や職人のいかにげんな手配により、トラブルが続出した。

【8/16】 「給料が支払われない」「砕石が届かない」「電気配線が終わらない」「屋根材の手配もしていない」ためか、現場作業は行われず、現場には誰一人いない。終日、段取りの確認に追われた。

【8/18】 工事再開! ヤクザ風の男に殴られた職人は来ておらず、別の人と入れ替わっていた。この間の事情について、農大のディードフ氏は「ナロジチにはまともな職人がいないため、酒を飲み、盗みを働くような手合いを雇わなくてはならないのだ」とウクライナの実情を説明してくれた。

【8/20】 BDFのテスト稼働に使うナタネ油と薬品(メタノール・苛性ソーダ・塩酸)の手配終了。「建屋内2箇所、断熱材入りの強化防火扉が必要」との情報が入る。「換気扇についても、バカでかい物を6箇所につけなければならない」と言う。さらに、「BDFを保管するためのポリタンクは、消防



法に違反するので金属製でなければならない」とも……。これらは、設計申請業者のいい加減な仕事の結果である。

電気配線工事始まる。コーラステンから来た電気屋さんイーゴリ氏は、元配電会社に勤務していた人で、図面にないコンセントを頼んでも嫌な顔一つしない人で大助かり。(頼りになる人もいる!!)



【8/21】 プ氏によると、「やはり6台の強力な換気扇をつけなければならない」とのことで困惑。

換気扇全部で33万円、工事費は84万円で、換

気扇関係の合計は117万円にもなる。さらに、避雷針アース工事代が52万円もかかるということで、お金のかかる防火扉・換気扇・避雷針工事は中断し、建屋の位置づけを「製造施設から実験施設へと切り替える」ことも含め検討しなおすことになった。

保管用のタンクは、BDFの性質や使い勝手の良さから20ℓポリタンクが最適なのだが、ナロジチから車で約30分の(2万人都市)オブルチで、6~7軒の店を捜し回ったものの売っていない。ウクライナにおける暖房は、「田舎では薪を使うペチカ、大きな建物では天然ガスによる集中暖房」となっており、灯油ストーブは普及していないため、日本ではありふれたポリタンクすらないということなのである。余りの生活の違いにボーゼンとする。

【8/22】 我々の苦手とする交渉ごとが少なくなってきたので、製造室の隣の事務室の工事を日本人だけで始めた。壁面の古いタイルを石ノミと金槌を使って剥がす。全体の6割を剥がした。この部屋は、工事期間中は職人の休憩室ともなっており、床にはタバコの吸殻・ウオッカの空瓶・きゅうりのヘタなどが散乱していて、日本の工事現場との違いを痛感した。こちらでは、明らかに酔っ払っている職人が働いており、職人の履物は靴ではなくサンダル。規律のなさを感じた。特に村を歩くと、必ず昼間からウオッカで酔っ払った人がいて困った。

【8/26】 電気屋さんと打ち合わせをしていて、図面にバックアップ電源がないことに気づく。通常は、BDFを燃料にした発電機で製造装置や建屋の電気を作る(自家発電する)計画なのだが、発電機の故障や点検時には、バックアップ電源として外部電源が不可欠。にも関わらず仕様には含まれておらず、今後の課題となった。

【8/30】 発電機とBDF製造装置を建屋内へ据え付ける。日本から送られてきた梱包を手作りのパールで壊し、発電機や装置を取り出す。配電会社から借りたクレーン車(フォークリフトはない!?)で、まず発電機の入るコンテナを屋外に設置し、その中に発電機を据え付けた。その後BDF装置をクレーン車で吊り上げ、そのまま車を走らせて建屋に運び込む。クレーンのブーム(腕)を伸縮できないので、このような捻破りな方法となるのだ。何はともあれ、試運転の準備は整った。

(いよいよ明日から、BDFプラントの試運転が始まる。このクライマックスシーンは、武田さんのレポート

【憧れのウクライナへ】(p4~5)を参照してください。

*チェルノブイリ救援中部は、BDFのテスト稼働にプラントの建屋改修工事が間に合わなくなる事態を回避するため、急遽、原と宮腰を1ヶ月前から現地に派遣しました。ナロジチ通信は、この様子を現地からメールで日本に送信したのですが、紙面の都合で要旨のみとなっております。双方の事情や常識の違いもあり悪戦苦闘しましたが、臨時通訳の宮腰氏にお世話になり、とりあえず役目を果たせました。心より感謝します。





【8/28】 緑がどこまでも続く広大な草原、そして青い空。絵に描いたようなイメージを持って、いよいよ憧れのウクライナへ…！ 名古屋中部国際空港フィンランド航空カウンター付近で9:00に待ち合わせ。河田氏がすでに来て待っていてくれた。チェックイン。予想外のハプニングが発生、なんとエコノミーからビジネスクラスに変更、もちろん即OK。その時対応してくれた女性が、すごく美しく(?) 輝いて見えた…出足絶好調であった。

同日、快適な空の旅を経て、ヘルシンキ空港に到着。雨上がりなのか、少し湿度があるような感じがする。ホテルにチェックイン、宿泊カードに記載…印刷文字が小さくて良く見えない(見えたとしても小生解読不能)…河田氏に手伝っていただき無事通過…市内見学へ。レンガ・石造りのビル、そして石畳の道路を路面電車と車が行きかい、何とも言えない雰囲気。

そんな中で、ヘルシンキ駅ホームの「映画のラストシーンに出てくるような雰囲気」を堪能して、本日4度目の食事。トナカイ料理…おいしいが、少し塩が利きすぎている感じがした。

【8/29】 ウクライナに向けヘルシンキを出発…大変な事が待ち受けているとも知らずに、キエフに到着。今度は、入国手続きのため通関窓口へ。大変な混雑である。手続きのため待っている人たちは、某国の若者を中心に無法地帯化…なんとマナーが悪いのか。「オリンピックの開催で少しは直ったのではないか」との期待が外れた。これに怒って河田氏が注意をしたが…平気…「なんで注意をされなければいけないのか」といった感じであった…そんな事件もありながら約1時間ぐらいかけて通関、荷物の受け取りを完了し出口へ…。

宮腰氏が迎えに来てくれていた。お迎えの車は、病院の救急車との事。ナロジチに向け出発19:30。すごい運転テクニック?で猛スピードで一路目的地へ。途中渋滞に巻き込まれる。対向車線・進行車線の側道(?)をどんどん走り抜けていく車がある…すごい!

やっとこ現地に着。周りの景色は闇につつまれて判らず、原・竹内両氏の出迎えを受け宿泊先(配電会社)に…感想は、やっとこ着いた…約4時間強のドライブであった。原・宮腰両氏とは以前に弊社で会っていたが、竹内氏とは初対面である。キエフに一人で住んでいるとの事、私にはできないことである…尊敬する。

【8/30】 いよいよ装置の設置場所へ。夜が明けて外に出てみると、すごい…「自然環境に溢れた所」というのが第一印象である。朝食(ウクライナの家料理との事)をいただき、森林浴を楽しみ(?)ながら、徒歩で現場へ約10分。工事が大幅に遅れているとの事であった。

そんな中、「発電機の調子がおかしい」…と原氏。「なぜか照明用ランプが明るくならない」と言う。配電系統の確認をした結果、現地の電気工事屋さんの勘違いによる配線間違いと判り、この件は一件落着。しかしこれだけではなく、今度は「冷却用の水道の整備がまだ完成していない」との事。何とか試運転に向けての準備を始めようと思うが進まない。ここに来て、お国柄の違いを痛感させられた。原氏の苦労が痛いほど感じられた。良くぞ、このような環境の中でここまで進められたものだ…と敬意を表す!

【8/31】 6:30頃起きて、カメラを片手に散歩へ。寮のすぐ脇を通る主要道路と思われる通りに出てみる。どちらを見ても限りなく真っ直ぐな道。朝が早いからなのか、車も少ないせいなのか、猛スピードで走っている。そんな中、荷物に乗せて子馬と一緒に馬車が走っていた…なんとも言えないのどかな雰囲気である。

朝食後、今日は生成に必要な部品を調達するため、隣町コーラステンまでバスで行くとの事。バス

停まで歩いて30分、途中で雨が降ってくる。この国の地方都市では、走っているタクシーに手をあげて停めて…なんて事は、ありえない様である。車を持っている知人に頼んで料金を支払い乗せてもらうか、歩いてバス停に行きバスに乗るか、いずれかの選択のようである。

やっとバス停に着きバスに乗る。地元の人たちが「なんでこのようなところに日本人がいるのか」と物珍しく観察する視線と、スピード感抜群の振動と騒音の約1時間のバスの旅へ。途中、日本でイメージしていた風景が目に入りビデオを撮るが、振動で思うように狙いが定まらない。

コーラステンに到着。バス停の周りはバザール、すごい人ごみ。野菜・衣類・雑貨・屋台・お菓子と蜂蜜の群れ(この国の蜂蜜はクッキーとセットのようだ?)…何でも揃うような感じがする。我々御一行は、ホームセンターのようなところへ。とりあえず必要なものの調達はOK。バザールを見学し、食料も調達し帰路へ。

【9/1】 午後、メタノール・菜種油が入荷するとのことで、試運転の準備をする。少し遅れて届いた菜種油は、なんともいえない色、臭いも青臭さが強い。200ccを装置に入れ加熱する。このような状態での稼働(生成)には不安があり、サンプリングし少量で試すが、やはり定量のアルカリ触媒液では反応しない。触媒の量を変え反応を確認し、それを基にアルカリ触媒液を装置に入れ反応させる。ようやく一歩を踏み出す。後は、上手く反応してくれるかどうかである。いつものことながら、装置が止まりグリセリンを抜くまでの待ち時間、一応自信はあったが不安もある…グリセリンを抜き取る。何とか反応し、グリセリンがほぼ定量抜き取れたようである。そして洗浄工程へ…水と塩酸を投入…色が異常!!…アルカリ増量分が悪さをしているのか? それとも塩酸の濃度が薄いのか? 塩酸を増量する…このような事を必死に試し、なんとか一回目の生成を終えることができた。

【9/2】 昨日の生成完了品を確認する。納得のいくような状態ではない。再度手動モードで洗浄する…やはり少し汚れがあったものの、今度は納得のいく出来上がりとなる。ところが、今度は冷却に使用する水道のパイプの繋がりが合わない。強制冷却ができず、やむなく自然冷却することになり、翌日抜き取ることにする。

【9/3】 給油ポンプをセットし、完成したBDFを装置より抜き取ろうとするが、ポンプが吸い上げられない…あきらめてバルブを手動で開放し、バケツで抜き取る。その間にポンプをバラし、原因を探す。イライラが最高点に達する。あれこれとバラし、やっと原因を掴む。なんと、日本から出荷する際、配管に栓をしたまま組み立ててしまったのだ。日本に直接電話をかけ怒鳴り飛ばす…電話に出た人が悪いわけではなく(真犯人は他の人)、怒鳴って解決するわけでもないのにと思いつながら…やれやれ大変だ…との思いだけが残る。抜き取り完了後、二回目の試運転(生成)に入る。現地の担当者も理解が進んだのか、ある程度操作はスムーズに行った。二回目も最後まで試行錯誤はあったが、何とか全工程を終えることができた。しかし課題も残った。「サンプルを持ち帰り再度条件出し」という宿題のお土産を持って帰ることとなった。

*この度は、河田さん・原さん・竹内さん・宮腰さんには、中部国際空港を出発する時から帰国するまで公私ともに面倒を見ていただき、ありがたく感謝しております。皆さんの支援がなければ、



<BDFのサンプルを持ち帰った武田さん>

結果が残せなかったのではないかと思います。今回の海外試運転は、私にとっても貴重な経験であり、勉強になり、有意義であったと思っております。お話によると、今回のプロジェクトはまだまだ続くようですし、現地ジトームルの消防署の皆さんの期待も大きいように感じました。このような機会を与您えいただき、皆様が取り組んでいる国際人道支援の一部を実感させていただいたことも、大いに勉強になりました。今後の皆様のご活躍を念じ、この度の私の「ウクライナレポート」とさせていただきます。

ナロジチでの BDF プラント試運転成功!! と今後の取り組み

(河田 昌東)

計画から 2 年にして、ナロジチでの BDF 製造が成功した。作った BDF で自家発電装置を動かし、外部電源に依存せずに BDF 装置が動いた感激は忘れない。農業用トラックを約 30km 走らせて帰ってきた運転手のアレクサンドル・シュベーツさんは、「軽油と全く変りがない」と満足げであった。

さまざまな困難はあったが、歴史的第一歩は踏み出された。EU 諸国のバイオエネルギー・ブームで、ウクライナのナタネ栽培は今年 180 万畝に急増した。しかし、そのほとんどは種子のまま輸出され、ウクライナ国内での BDF 利用はほとんどない。我々の成功は小さくとも、将来のウクライナ国内におけるバイオエネルギー生産に希望を与えるものになろう。試験運転のため現地まで出向き、技術的問題をクリアしてくださった、MSD 社の武田社長に心から感謝する。

我々の試験栽培 (4 畝) で採れるナタネでは、BDF 装置を 10 日間程度しか稼働できない。製造する BDF は、とりあえずは我々の畑の菜種栽培や収穫などに使うが、今後は農家とタイアップして栽培面積を広げ、BDF 装置の定常運転を目指す。そして、地区内のスクールバスや病院の救急車・コルホーズの農業機械などに提供できたら...と、話し合っているところである。今回の BDF プラント試運転では、過去 20 年間の救援活動では経験しなかった多くの問題点が明らかになった。今後のバイオガス装置建設にあたっては、今回の経験を生かしてじっくり取り組みたい。



夢のような話が現実味を帯びてきた!

(宮腰 吉郎)

今回の滞在で、通算ナロジチ滞在日数が「原さんに次いで第二位」となってしまった宮腰です。

このプロジェクトをビデオカメラで追い始めて、2 年が経ちました。今回の約 1 ヶ月の滞在は、多少なりとも現地の言葉がわかる者として、原さんの現地活動をサポートするという使命も背負っており、これまでのようにカメラを担いでいればよいというものではなく、辞書や日本と通信するためのノートパソコンなども常に携帯しての活動となりました。今回は、自転車という日常の足があったので大変助かったのですが、特に不慣れな「通訳」という役割に関しては、かなり苦勞しました。

ナロジチでは、(これは当然なのですが) ロシア語を話す人もいますが、ウクライナ語メインの人が結構多く、基本単語がなんとかわかる程度の私としては大変困り、(日本に) 帰国中の竹内さんに私の携帯電話を持参していただき、何度も助けてもらいました。

現地では、「毎日のようにトラブルが降って湧いてくる」といった状況でした。原さんの人柄のおかげで、感情的なこじれというよりも、商習慣や仕事の進め方の違いに起因するものが多く、我々は大いに悩まされたのですが、あちらはあちらで、「なぜこんなに『ハラ』が怒っているのかわからない」というリアクションをされる時もありました。

時として、「日本にたかろうとしているのではないかと、疑心暗鬼にさいなまれることもありましたが、これまでのチェル救の活動の実績からか、現地では「チェル救＝日本人」に対する信頼が深く、いろいろな人に助けられもしました。

現地側に協力姿勢が見られず、「製造断念」という言葉が頭をよぎる場面もありました。しかし、こうして BDF 製造が成功したことにより、あの黄金色に輝く BDF を見つめる現地の人々の目から判断すると、彼らは「日本人が語る、夢のような話が現実味を帯びてきた」ことを感じつつあるようです。

チェルノブイリへ温かい想いを添えて…今年も2つのキャンペーンが始まります!!

1986年4月26日、いまから22年前、日本から遠く離れた旧ソ連ウクライナ共和国の原子力発電所で大きな事故が起きました。その事故によって、目には見えない放射線が大量に放出され、その量は広島原爆の500発分ともいわれています。たくさんの方が亡くなりました。放射能の脅威は何十年にもわたり、長く長く続きます。今でも多くの子ども達が、体内被曝によるさまざまな病気とたたかっているのです。

～カードキャンペーンのお知らせ～

「私たちは、チェルノブイリで起こったことを忘れていない」というメッセージを込めて、病院や孤児院にいる子ども達にクリスマスカードを贈りましょう。あなたの温かいメッセージは、きっと届きます!

◇スタッフが折鶴とメッセージを
同封して届けます!

◇日本語・英語・ロシア語、何語でも
構いません。

◇子ども達が喜ぶような絵や写真
(日本的なものが喜ばれますよ☆)を
添えてくださると、とても嬉しいです。

☆カードの送り先・問い合わせ☆

〒466-0822 名古屋市昭和区楽園町 137

楽園アパート 1-10

チェルノブイリ救援・中部 宛

TEL/FAX 052-836-1073

(月・水・金 10:00~17:00)

<http://www.chernobyl-chubu-jp.org>



★封をしていない封筒にカードを入れ、さらにもう一回り大きな封筒に入れて、**上記の事務所までお送りください★**

締め切り:12月14日(日)必着です。よろしく願いいたします。

～ミルクキャンペーンのお知らせ～

体内被曝は、子ども達のみならず母親にとっても大きな問題です。放射能で汚染された母乳だということは知りながら、貧困のため粉ミルクを買うことができません。仕方がなく、母親は汚染された母乳をわが子に飲ませます。それを口にした赤ちゃんは当然被曝し、その連鎖が続きます。

【どんな人間も健康に生まれ、健康に生活を送っていく権利がある】…と思います。

チェルノブイリ救援・中部では、そんな被曝の連鎖を断ち切るために、母乳が汚染され、また粉ミルクを買うことができない人々に、粉ミルクを贈るための寄付金を募っています。皆様からの寄付金は、現地のパートナー団体である“チェルノブイリホステージ基金”を通して、支援先の人々に届けられます。毎年約2トン(1~2万人の新生児分)、汚染されていない粉ミルクが提供されています。少しでも多くの赤ちゃんが、汚染されていないミルクで元気に育つよう、皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。

～お振込み方法～

郵便局の『郵便振替用紙』に必要事項を記入の上、下記あてに振り込んでください。

(1口おいくらでもかまいません。

通信欄に「ミルク代」とお書きください。)

振込み先:チェルノブイリ救援・中部

口座番号:00880-7-108610

菜の花PJの今後 (小牧 崇)

現地での BDF プラント試運転成功をふまえて、プロジェクトを今後どのように展開していくのか。月一回の運営委員会では、なかなかたっぷり時間をかけた議論ができないので、9月20~21日の2日間、臨時の合宿討論(伊那)を行った。

参加者は、名古屋から5名、富士見から1名、伊那4名、モスクワ経由で帰国したての宮腰さんを加え、当初の予定を大幅に上回る11名となった。

●現地マネージャー問題

このプロジェクトは、土壌浄化・BDF・BG(バイオガス)の三本柱で成立している。昨年から始まっている土壌浄化プロジェクトについては、現地と取り交わした契約書の中でも「農業生態大学に委託する」と明文化されており、実際、ディードフ氏が推進リーダーとなり順調に進んでいる。ところがBDF(BG)については、日本からのスタッフが現地に張りつかない限り、更には「規制の壁」もあって、なかなか前に進まない状況が続いてきた。

今回、ようやくBDFの試運転にこぎつけたが、「やはり現地マネージャーは不可欠」との議論は、春頃から出ていた。もともと契約時点では、こうした推進役として「ナロジチ行政」を想定していたのだが、ドイツ資本の進出等により、こうしたこちら側の期待は空振りに終わっている。そこで、11月に派遣する代表団の仕事として、プロジェクトに関わる「ナロジチ行政・議会・ホステージ基金・農業生態大学・土地管理ステーションと救援中部」による「六者協議」をコーラステンで開催し、現地側にマネージャーの選任を強く迫ることになった。

●ナロジチ住民の理解を進めるために

現地滞在期間が最も長い原さんより、「住民からチェル救は充分認知されている。しかし、このプロジェクトについては、ぼんやりとした理解しかない」との指摘があり、住民理解を深めるために、さまざまな観点から意見が出された。既に、説明会などは何度か実施してきたが、一週間程度の滞在では限界がある。そこで、来年4月以降にスタッフが長期間滞在し、UNDP(国連開発計画)とも提携しながら、セレッツ村などにある程度的を絞って、住民への働きかけを実施することになった。

●BGは？

BDF原料の油を採った後の(汚染された)バイオマスを適切に処理するためにも、BGプロジェクトは不可欠なのだが、現地の理解は進まず具体化に至らない。そこで、「ウクライナ側のスタッフと一緒に、先進国ドイツの視察をしたらどうか」という意見が出された。

しかし、ウクライナの現状を考えた時、あまりにかけ離れたモデルを見るよりも、簡単な実験機を現地に造ったらどうか。またBDFプロジェクトの反省もあり、「現地の反応を見ながら対応するために、自己資金で取り組もう」ということになった。

*途中、焼きサンマ会と短い睡眠を挟んで、23時間!! みっちり議論しました。

菜の花PJのサポーター大募集中!!

皆さまのご支援、そしてボランティア貯金の交付金を支えとして、菜の花プロジェクトもBDF製造という大きな第一歩を踏み出すことができました。一方、次年度着手するBGプロジェクトは現地サイドとの詰めが進まず、日程がたてられないため、自己資金に拠らざるを得ません。そこで さしあたってすぐ必要になる「**現地移動用バイク(約8万円)**」「**コンクリート・ミキサー(約4万円)**」の購入資金カンパを募っています。よろしくご協力をお願いします。

10月25日、26日は…【ワールド・コラボ・フェスタ 2008】 (山本 梨恵)

来たる10月25日、26日に、久屋大通公園『もちの木広場』とオアシス21『銀河の広場』にて、毎年恒例の、国際交流・国際協力・多文化共生などをテーマとした中部地域で最大規模の国際交流イベント「ワールド・コラボ・フェスタ 2008」が開催されます。

そこで私たちは、今もなお被曝で苦しんで病院にいる子ども達や、放射能によって両親を亡くし孤児院に住んでいる子ども達に元気になってもらおうと、クリスマス時期にウクライナの子ども達へクリスマスカードをプレゼントしようと企画しています(p7 参照)。当日のブースでは、クリスマスカードを折り紙や色鉛筆等を使って作成してもらいます。毎年、年齢を問わず、たくさんの人に楽しんで制作していただいています。また、今年は会場内の一角でワークショップを開催します(10月26日 14:45~30分間)。

ここでは、参加者の皆さんにクリスマスカードを作ってもらいながら、子ども達には「22年前にチェルノブイリという所で原子力発電所が爆発して多くの人が亡くなり、今も多くの人が苦しんでいる」ことを知ってもらい、大人の方には「チェルノブイリで起こった悲劇をいつまでも忘れないでいて欲しい」と語りかけます。

毎年多くの方々の協力で、たくさんのカードを現地に贈ることができます。今年の冬も、たくさんのクリスマスカードを贈り、一人でも多くの子ども達に笑顔が増えたらいいなと思います。

また、ブース内ではウクライナの民族衣装や民芸品を展示・販売します。最新のナロジチ情報を、写真パネル等を通してわかりやすく説明します。多くの方が参加されることを楽しみに待っています!!



森とキノコの話 (小牧 崇)

秋も深まり、キノコの季節を迎えました。ところがここへきて不安材料が…。というのは私の住む地区に「ごみ処理施設」が建設されそうなのです。背景には、「不安のある施設は住民の少ない山間地(森)に建てればよい」…そんな考え方があるように思います。しかし、森なら良いのでしょうか。…現在「菜の花プロジェクト」を進めているナロジチ地区は、全域汚染地帯なのですが、汚染の程度が異なります。

中心集落ナロジチ町の北部は見渡す限りの畑。南東部は白樺と松の美しい平地林の中に小規模な耕地が点在します。高濃度汚染によって強制移住となった廃村は、この南東部の森に集中しています。

一方、北部の広大な畑は汚染の度合いも低く、最近では独資本が入って菜種栽培が進んでいます。他の条件は全く変わらないのに、森とその周辺の集落は高濃度に汚染されている。これは森の木々が風に乘って移動する放射性物質を捕え、拡散を防いだからだと思います。

事故から5年後、初めて汚染地帯を簡単な放射線測定器を持参して訪問した際、市街地は測定値が日本と変わらず安心したのですが、市内の公園・畑・森の中…と、自然が豊かになるほど放射能値がうなぎ上り。「豊かな自然が残されている場所ほど汚染がひどい」…これが実感でした。秋になると、美しい森ではキノコがたくさん採れます。これは長年、村人の楽しみでもありました。しかし、事故から20年以上過ぎた今日でも、保健所の測定室に持ち込まれる物の8割以上が、安全基準を超える「毒物」です。

森が大気中の汚染物質をとらえ地表に蓄える。これをキノコがせっせと吸収して「生態濃縮」する。キノコの姿形に変化はないので、つい食べてしまう。ナロジチ住民の体内放射線量は、日本人の800倍(平均値)。もちろん、原発とごみ処理施設では危険の度合いが異なります。

しかし、「大気中に放出された有害物質が、どのように拡散し濃縮するのか」という点について、共通するものがあるように思われます。

————— 迫りくる石油枯渇に原発は有効か —————

「菜の花プロジェクト」は、バイオディーゼル油生産段階に入り、これからいよいよバイオガス生産段階へと準備を進める。この小さな試みが、大きな未来につながることを願って。しかし今、世界はエネルギー事情をめぐる激動期を迎えている。アメリカの住宅バブルから逃避した投機マネーは、石油危機に乗じて暗躍し、石油の値段を激しく上下させている。この刹那的な株価操作による石油価格の高騰は、しかし、私たちの生活の未来の確実なシミュレーションである。

● 石油枯渇の恐怖と株価操作

シンクタンク「ローマクラブ」が、近代社会の未来を予測し、資源枯渇や人口増加・軍拡・経済発展・環境破壊など、地球規模の問題に警鐘をならした「成長の限界」を公表し、世界に大きな反響を呼んだのは1972年であった。それから36年経った今、指摘された問題は解決への道筋が見えるどころか、危機はますます現実味を帯びてきている。近代文明を支えてきた石油資源は、予測どおりのスピードで減りつつあり、OECD（経済開発協力機構）によれば、あと40年あまりで枯渇する。「2010年あたりが石油の生産と消費のバランスが崩れる『ピークオイル』になる」と予測する専門家もいる。イラク戦争は、石油利権をめぐる最初の戦争だったかもしれない。石油高騰でバイオ燃料への傾斜が加速し、食料との競合で世界の貧富の格差はますます広がった。アメリカ発の石油株価操作は、漠然とした人々の危機感を巧みに利用し利潤をあげた。にもかかわらず、このエネルギー危機の傾向は一時的なものではない。インドや中国に加えアフリカ諸国の近代化は、全地球的な石油危機をますます加速するだろう。自由に飛行機に乗れる時代は、そう長く続かない。

● 地球温暖化と石油危機は表裏一体

今、マスコミではもっぱら地球温暖化対策に向けた取組みがもてはやされ、石油を多消費する先進国と、消費が増大しつつある途上国(?)の対立が報じられている。倫理的には先進工業国がまず手本を示すべきだろうが、アメリカなど多消費国は現状維持を求めてやまない。かく

いう日本も、言葉とは裏腹に、炭酸ガス排出量は減るところか、ますます増えつつけている。世界全体から見れば有効だとする「排出権取引」制度は、金持ち国の現状維持のためのまやかしに過ぎない。小手先の対策ではなく、「石油消費（エネルギー消費）を如何に減らすか」に全力をあげなければ、我々に未来はない。

● 原発は温暖化対策？

温暖化対策のブームに乗って、炭酸ガスを出さない原発がもてはやされ、チェルノブイリ事故以来低迷していた原発業界が、息を吹き返しつつある。しかし考えてみるが良い。原発建設に必要な鉄とコンクリートを原発で作れるのか？ たとえ、原発の生み出すエネルギーが建設エネルギーを上回るとしても、膨大な廃棄物を処理し管理するエネルギーはまかなえるのか？ 何より、原発の燃料であるウランもまた、石油と同じ地下埋蔵資源であり、このままの消費ならあと60年しか持たない。原発を増やせば、更に枯渇までの寿命は短くなる。

世界が諦めた高速増殖炉を日本は諦めきれず、「もんじゅ」の運転を再開しようとして、施工ミスでつまづいている。すでに何回も触れたが、高速増殖炉は危険だけでなく、燃料増殖の見込みのない鉄屑である。運転間近の六ヶ所村再処理工場も、高速増殖炉稼動を前提にしており、原子力産業界の利益にしかならない。

世界が諦めた高速増殖炉と再処理を続けることは、膨大な税金の無駄遣いである。専門家は責任を自覚し、政治家は学ばなければならない。解決策はただひとつ。

消費抑制と持続可能なエネルギー社会への投資と技術革新しかない。（河田）

竹内さんのウクライナ傭兵

「救援・中部」の派遣団がナロジチに滞在していた8月末、何日かかなり気温が下がって寒い思いをしたことがあったのですが、その後暑い日もあったものの、9月半ば頃から10℃前後の気温になって雨が続き、集合住宅の集中暖房はまだ入らないので、部屋の中はひんやりとしています。しかしこの間、夏休みの終わった最高会議では、またも政局が激動していました。大統領の権限を一部削減して首相に移譲する法改正案を、連立与党中の「ティモシェンコ・ブロック」と野党の「地域党」が組んで可決してしまい、これに対して、連立を形成するもう一つの与党であり、大統領支持派閥の「我らのウクライナ+国民自衛」が連立離脱を宣言。この宣言は10日後、最高会議議長ヤツェニューク氏により正式に承認され、同時に「我らのウクライナ」所属の同氏は議長職を辞任。「我らのウクライナ+国民自衛」所属の大臣たちは内閣に残っているものの、この連立崩壊から30日以内に新たな組み合わせの連立が成立しない場合は、大統領に議会解散発令権が生じる…というのが、現行の憲法の規定です。

「我らのウクライナ+国民自衛」と「ティモシェンコ・ブロック」の妥協・再連立がまずありえない現在、最も可能性が大きいとされているのは、「ティモシェンコ・ブロック」と「地域党」の連立。とはいえ、政策上ははっきりと対立し、支持層も明らかに異なる2党の連立は、特にこれまで「ティモシェンコ・ブロック」に投票してきた有権者の反発を買うことが必至であり、ティモシェンコ首相は新たな議会選を戦って議席数の拡大に努める方を選ぶのでは？ との見方もあります。一方、「首相いびり」に不毛なエネルギーを費やしてきたという感を免れないユシェンコ大統領の人氣は、低落の一途をたどっています。ここでまたしても最高会議解散・選挙の道を選べば、この間の大統領・首相・国会のとめどない内輪もめと非効率極まりない仕事振り、実現されないままの選挙公約に対する国民のうんざり感をいっそうつものらせ、「我らのウクライナ」の議席数減少は避けら



れないでしょう。「我らのウクライナ」所属で、著名なロックバンドのリーダーでもあるヴァカルチュク氏は、このように醜い権力争いで議会は機能不全に陥ったとして、議員職を辞任してしまいました。ともあれ、本紙が読者の皆さんの目に触れる頃には、事態が何らかの進展を見せているかもしれません…。

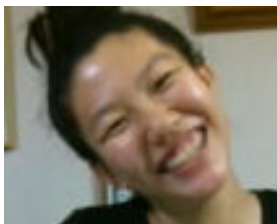
ロシアのグルジア侵攻に対しては、大統領がロシア黒海艦隊の示威的な動きに制限を加えようとしたのに対し、首相はその主張に法的な根拠がないことを指摘、ロシアとの関係をいたずらに緊張させることは避けるべきとの態度を取りましたが、大統領府はこの首相の態度がウクライナの国益を損うものと告発。一方「地域党」党首のヤヌコーヴィチ氏は、南オセチアとアブハジアの独立を認めるべきと発言。この問題も、各党派間の亀裂を鮮明にするのに役立ただけでした。ウクライナの現政権のNATO・EU加盟を目指す路線に対し、ロシアは露骨に牽制する姿勢を見せてはいますが、グルジアと異なり、国内での武力を伴う衝突や対峙関係が存在しないウクライナで、グルジアと同様の事態が発生することはまずないと考えてよいでしょう。なお、9月に開かれたEU-ウクライナサミットでは、ヴィザなし交通の導入に関する対話の開始と、2009年後半に連合に関する協定の調印を行うことが合意されたのみで、EU加盟に向けてウクライナが実施すべきプラン（政治改革や経済的・社会的改革、法や交通網の整備、環境保護など）の進捗がはかばかしくないことがマスコミでは指摘されています。

(9月21日)

事務局便り・・・とびきり簡単報告

今年6月、ナロジチ地区病院患者の病気の早期発見に必要な、簡易型の脳超音波検査器と心臓超音波検査機を提供する目的で、愛知県国際交流協会に助成申請をし配分決定された。しかし、8月にナロジチ地区病院から心臓超音波検査機が高騰し、購入不可能との連絡が入り、現地状況の説明文を添え、変更申請中。一方、2007年(上期)国際ボランティア貯金助成による事業終了に伴い、完了報告書作成中。10月1日締切り。
(山盛)

Nタマ自己紹介



はじめまして、黒瀬 愛見(クロセ メグミ)と申します。愛知淑徳大学3年生です。9月初旬から「チェルノブイリ救援・中部」の活動に、インターンとして参加させていただいています。担当させていただくのは、クリスマスカード・キャンペーンです。成功させられるか非常に心配なところではありますが、がんばります!ので、厳しい目で見守っていただけ

と嬉しいです。

日頃は、どこかネジが取れたようにボーっとしている私ですが、半年間はネジを締めてやっていきたいと思しますので、よろしく願いいたします。

編集後記

☆N 駅で電車を待っている。到着した電車内のほとんどの乗客は、年齢を問わず携帯電話に夢中。トンネルを抜けた駅構内のわずかな停車時間には、何が何でも送受信したくなるらしい。読書の秋…本に熱中している人が、やけに新鮮に見えるのは私だけ?
(美)

☆「25年後の磯野家」のCMがお気に入り。まだ登場していないサザエさんやマスオさんのキャスティング予想が、職場のお昼休みのもっばらの話題。それにしても、タラちゃんやイクラちゃんの成長が眩しすぎる。
(佳)

☆「ボラみ展 in 愛知淑徳大学 CCC」(10/5)の企画に携わって、いろいろなボランティアに出会った。困った時の最後の頼みは、かねてより築いてきたネットワーク。友人・知人のありがたさが身に染みる。新しい人との出会いも感激。プレッシャーも大きいけれど、わくわく、ときどきの毎日。(京)

☆先日(9月11日)、東京へ出張した帰りに恵比寿へ立ち寄り、「911講演会(きくちゆみさん/ベンジャミン・フルフォードさん/藤田幸久さん)」を聴講しました。定員300名程の小さな区民会館のホールでしたが、会場は超満員。参加者は、みな真剣に耳を傾け、各講演者も確信(信念)を持って説明しているのが印象的でした。「911テロ事件」の真相を追究する講演会は、どうしても東京が中心となっていますが、これから予定されている「911真相究明国際会議」は、「10月27日(秋田)・10月31日(神戸)・11月1日(大阪)・11月2日(名古屋)・11月3日(東京)」…と、全国縦断ツアーで開催されます。是非、万障繰り合わせて参加されることをお勧めします。詳しくは、きくちゆみさんのホームページ【<http://kikuchiyumi.blogspot.com/>】を参照してください。(J)



カードキャンペーン
&
ミルクキャンペーン
開催中!
P.7 も見てね。

〒456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14
印刷「エープリント」
TEL・FAX (052) 871-9473